



新年賀謹



町長あいさつ

須恵町長 中嶋 裕史

新年あけましておめでとございます。町民の皆さまにおかれましては、素晴らしい年をお迎えのことと推察申し上げます。私にとって、本年は節目の年になります。特別職として16年余り、町職員として33年、須恵町に奉職し、約50年間公務員として働かせていただきましたが、大過なく終えようとしておりますことは、町民の皆さまの熱いご支持とご支援、更には、優秀な職員の献身的な働きに加え、議会の皆さまの暖かいご同意の賜物と、深く感謝申し上げます。

この16年を振り返ってみますと、町長就任当初は「平成の大合併」の時代でした。本町は、宇美町、志免町の粕屋南部3町での合併を進めておりましたが、粕屋町を中心とした枠組みで取り組まなければ、交通面の課題だけでなく、し尿や水道・ゴミといった行政の主要課題も解決できないため、私から破談を申し入れました。次に宇美町、志免町、粕屋町、篠栗町、久山町の糟屋6町での合併を視野に入れて、各町とも議会に上程しましたが、結果、中核的な粕屋町の否決により、こちらも成立しませんでした。

二期目に入ると、町財政はますます苦しくなりました。地方交付税も削減され、厳しい財政状況の中、町としては売れる町有資産を売却し、財源に充てて急難を凌ぎました。そのような折に、宝満堂様からいただいた高額なご寄附はありがたく、まさに町の救世主でもありました。

このような、須恵町にとって厳しい時代に浮上した面白い話題が、渡辺具能元代議士のスマートインターチェンジ構想でした。本町はいち早く手を挙げ、九州では唯一の社会実験実施地区となりました。社会実験から始まったスマートインターチェンジ事業は、恒久化し、現在でも多くの人がご利用いただいております。スマートインターチェンジ事業成功のお陰で旅石地区との約束である、赤坂地区の4大事業（六坑硬山の整理・赤坂地区の埋め立て・県立高校の開設・県道新設事業）を完成させ、買利物難民の解消や人口の増加に繋がりました。

三期目は、県の公民館の会長や治山林道協会の会長、全国の理事、更には県の町村長会の副会長に就任し、やっとな町長として認められる立場となりました。

スマートインターチェンジ構想から続く赤坂地区の開発は、旅石地区の皆さまのご理解により、用地交渉がうまくいき、今後はデイスカウトショップや医療機関の進出が期待されます。

この16年の間に須恵町も大きく発展することができました。これからは「人」も「仕事」、地方創生の時代です。地方の活躍によって、地方が潤います。町民の皆さま一人ひとりのイノベーションが、期待されることです。

昭和39年のオリンピックの年、国鉄志免炭坑の閉山によって須恵町は大きく変わりました。次のオリンピックまで1000日足らず。これからの須恵町がさらに大きく変わると期待しながら、年頭のあいさつといたします。

新年あけましておめでとございます。町民の皆さまには健やかに新春をお迎えることと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろより議会活動に温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

旧年中を語る上で忘れてならないものが「九州北部豪雨」です。九州北部地方では、平成29年7月5日から6日にかけての総降水量が、多いところで500ミリを超え、7月の月降水量平年値を超える大雨となりました。また、福岡県朝倉市や大分県日田市などでは、24時間降水量の値が観測史上1位の値を更新しました。この記録的な大雨により、福岡県、大分県の両県では、死者38人、行方不明者3人の人的被害の他、多くの家屋の全半壊や床上浸水など、甚大な被害が発生。今もなお、その傷跡を残しています。

身近にある風景が一瞬にして変わってしまふ。このような事態が近年続いています。しかしながら、私達日本人はそのたびに、知恵を絞り、困難を克服してまいりました。九州北部豪雨においても、行政の対応もさることながら、民間ボランティア

アの迅速な支援体制など、目を見張るものがありました。本町からも多くの人が支援に参加されたと聞いています。今後とも復興に向けた協力体制が求められます。本町に目を向けますと、須恵町第五次総合計画に定める目標人口「2万8千人」に到達しました。人口減少が進む日本において、福岡都市圏である本町は人口増加が続いています。その賑わいを表すかのように、九州自動車道須恵スマートインターチェンジに接続する県道志免須恵線沿いを中心に、開発が進んでいます。本年以降も成長が続き、皆さまの暮らしが向上していくことを切に願うばかりです。

本町議会におきましても、町民の皆さまから信頼される議会を目指し、「住みよい須恵町」づくりのため、一人ひとりが議会の使命と議員の職責を認知し、品位ある議会運営を目指し活動してまいります。本年も皆さまからのご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

終わりに、2018年の干支は「戌」。「戌」は「滅（ほろぶ）」の意味があるそうで、西年で成長した草木から実りを収穫し、新たな芽吹きに向けた準備を行う年を表

議長あいさつ

須恵町議会議長 三角 良人

すようです。新しい流れの始まりを予感させる年ともいえます。一昨年、今上天皇が生前退位の意向を示され、退位は平成31年春ごろとの報道がありました。それに伴い、今年の夏ごろには新しい元号が発表されるようです。また、本町においても、町長の任期が4月までと町長選を控えています。「平成」から新しい元号への移行、並びに町長選。干支が示す通り、新しい時代の始まりを予感させます。

この新しい年が、皆さまにとって実り多い年となりますことを祈念申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。

